

令和元年度「災害時外国人支援情報コーディネーター養成研修」
講義② 災害時における外国人被災者への情報伝達にかかる事例紹介

令和元年8月豪雨における 佐賀県災害多言語支援センターの活動

公益財団法人佐賀県国際交流協会 矢富明德

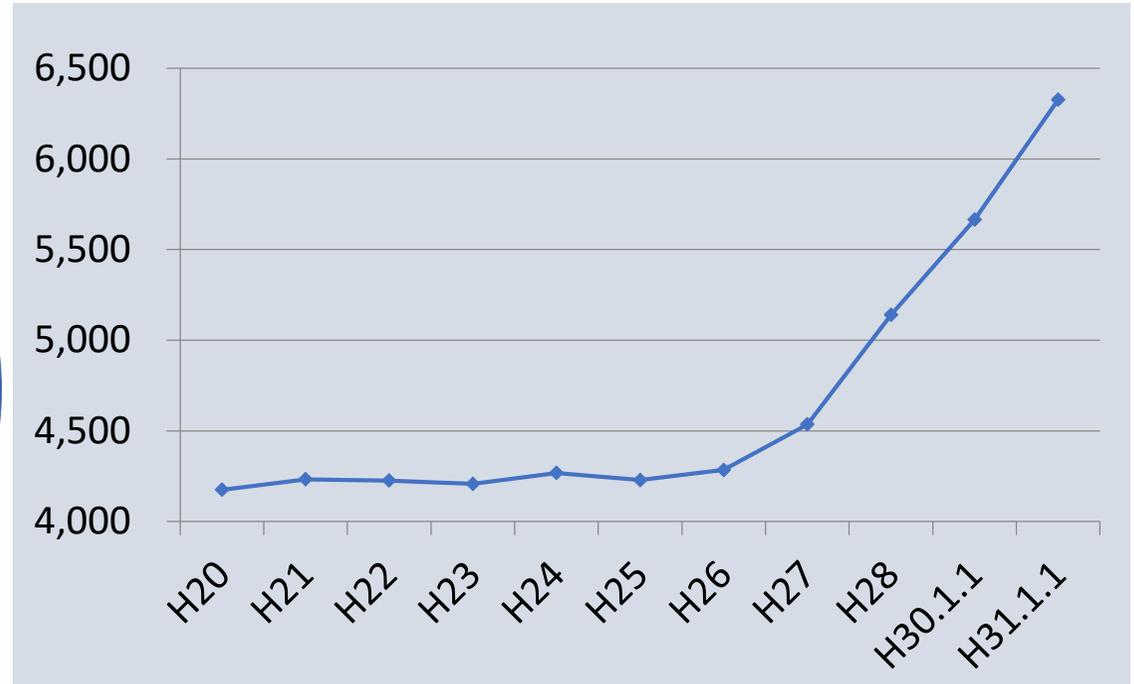
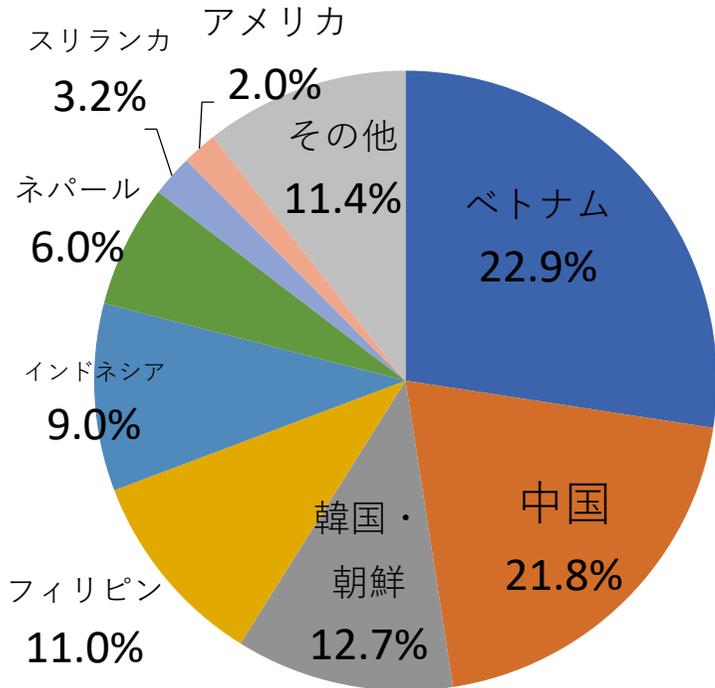
内容

- 自己紹介
- 佐賀県及び佐賀県国際交流協会 (SPIRA) 紹介
- 令和元年8月豪雨における
佐賀県災害多言語支援センターの活動紹介
- 災害発生後の動き

佐賀県在住外国人現況[県内在住外国人人数]

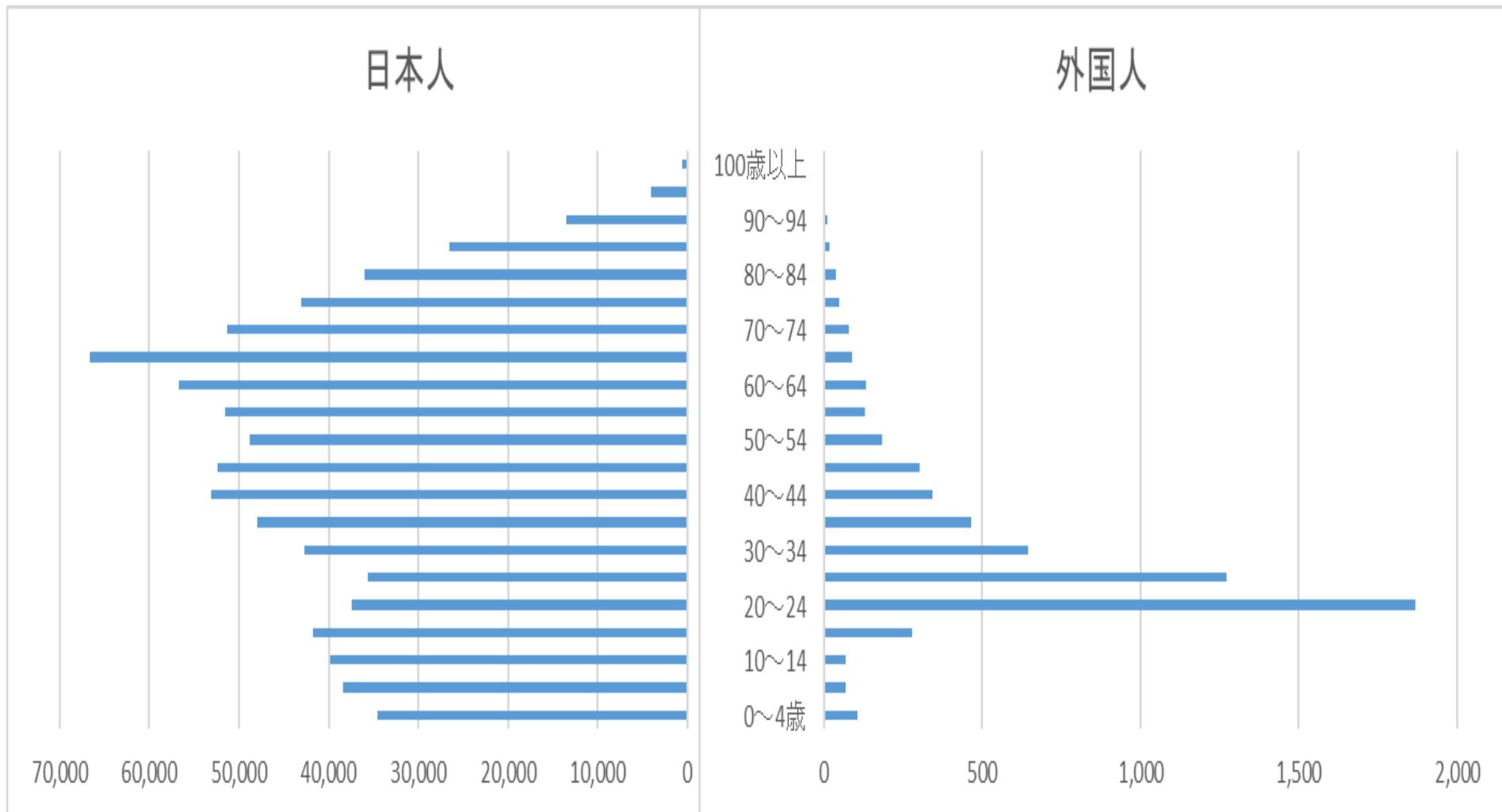
12月末現在（H30から1月1日現在）（人）

年次	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H30.1.1	H31.1.1
人数 (人)	4,175	4,233	4,226	4,208	4,268	4,229	4,285	4,536	5,140	5,666	6,338



- H27以降大きく増加(H27→H28:604人増、H28→H30.1.1:525人増、H30.1.1→H31.1.1:672人増)
- H31.1.1現在、県人口の約0.7%を占める
- 国籍別ではベトナムが最も多く、次いで中国、韓国・朝鮮
- ベトナム(448人増)、インドネシア(107人増)、フィリピン(31人増)、ミャンマー(27人増)は増加(カッコ内はH30.1.1とH31.1.1の比) 一方、中国、韓国・朝鮮は近年減少傾向

佐賀県在住外国人現況[年齢別] (平成31年1月1日現在)



SPIRA (佐賀県国際交流協会)

Saga Prefecture International Relations Association

- 設立 1990年(平成2年)2月7日
- 住所 佐賀県佐賀市白山2-1-12 佐賀商エビル1階
- 職員 9名(英語、中国語、韓国語スタッフ在籍)



SPIRAのシンボルマーク

「手をつなぎ、楽しくコミュニケーションする人と人。
緑は佐賀平野、赤はお互いの熱意、青は世界に
広がる海のイメージ」

SPIRA基本方針

<3つの基本方針>

1. 多文化共生の地域づくりの推進

外国人住民を含めた県民誰もが住みやすく、地域社会の一員として活躍できる環境の充実を図ります。

2. グローバル人材の育成及び国際交流団体等の活性化

グローバル社会で活躍する国際性豊かな人材の育成や団体の活性化を図ります。

3. 多様な主体との連携・協働

様々な主体とネットワークを構築し、連携・協働して、国際交流・国際協力活動の充実及び効率化を図ります。

SPIRA事業施策

Aコミュニケーション支援

- ・情報収集・提供の高度化事業
- ・日本語スピーチコンテスト
- ・日本語教師養成講座助成事業
- ・「やさしい日本語」啓発セミナー
- ・情報紙「Hello Saga」発行（外国人向け）
- ・地域日本語教室支援事業
- ・日本語学習ボランティア研修

B生活支援

- ・教育支援事業
- ・生活相談事業
- ・医療支援事業
- ・防災支援事業

C多文化共生の地域づくり

- ・情報誌「Hello Saga」発行（日本人向け）
- ・SPIRA出前講座
- ・多文化共生人材育成講座
- ・多文化共生情報発信事業
- ・国際交流・協カイベント事業
- ・多文化共生等助成事業

令和元年8月豪雨における 佐賀県災害多言語支援 センターの活動

災害発生までの主な取り組み

佐賀災害支援プラットフォーム(SPF)

災害緊急対応・復興支援活動、地域自主防災力を高める仕組み

県内CSOをはじめ誘致CSO等の多様な主体との協働による災害・復興支援と地域防災の仕組みづくりを実践(約40団体が賛同)



2019年1月23日
佐賀県と災害にかか
る協定締結

災害時外国人支援情報コーディネーター研修 (2019年2月)

総務省「平成30年度 災害時外国人支援情報コーディネーター研修」
1日目3限目「グループ討議」

資料1

ロールプレイ「災害多言語支援センター 設置運営訓練」概要

1 目的

「災害多言語支援センター」(以下、「センター」)での活動を実際に体験することで、センターの開設・運営の基本的な一連の流れを理解する。また、今後の当該地域において、災害時外国人住民支援を円滑に行うために必要な事前準備事項・改善点等を明らかにする。

2 前提条件

本訓練では、後述する「3 災害想定」に基づき、各被災地域に設置された「災害多言語支援センター」の運営業務に設置主体または外部からの応援者として携わったこととする。

なお、いずれのセンターも設置された建物自体には被害がなく、電気・ガス・水道等のライフライン(インターネット、電話回線含む)は通常通りであること、また運営業務に携わる者の家族等近親者にも被害はなく、業務に集中できる環境下にあるものとする。

3 災害想定 (福岡市)

1) 災害

平成31年2月21日(木) 17時35分、豊国新層 を震源とする
マグニチュード7.3の地震が発生。各地の最大震度は次の通り。

震度7

震度6強

総務省「平成30年度 災害時外国人支援情報コーディネーター研修」
2日目1、2限目「ロールプレイ」

資料3

ロールプレイ「災害多言語支援センター 設置運営訓練」 作業内容等

<第2段階>

避難所巡回及び相談対応を通じた被災外国人状況の把握と支援活動を行う。

◆作業内容

(1) 避難所巡回

【巡回班】班長 ()

- 避難所管理者等に、被災外国人の状況等を確認する
- 避難所等に掲示されている情報とその言語を確認する
- 被災外国人にヒアリングを行い、支援ニーズ等を確認する
- 被災外国人に情報提供を行う
- 避難所管理者等に、被災外国人の状況等を報告し、必要な配慮を求める

(2) 相談対応 *今回は割愛

【相談班】班長 ()

- 相談内容に応じて必要な情報提供等を行う
- その場で回答できない場合の対応を考え、後日の連絡に備える
- 主な相談内容と回答を相談者間で共有する
- 主な相談内容と回答を情報班に伝え、多言語情報の作成を依頼する
- 必要に応じて外部の情報発信元に外国人への配慮・対応を求める

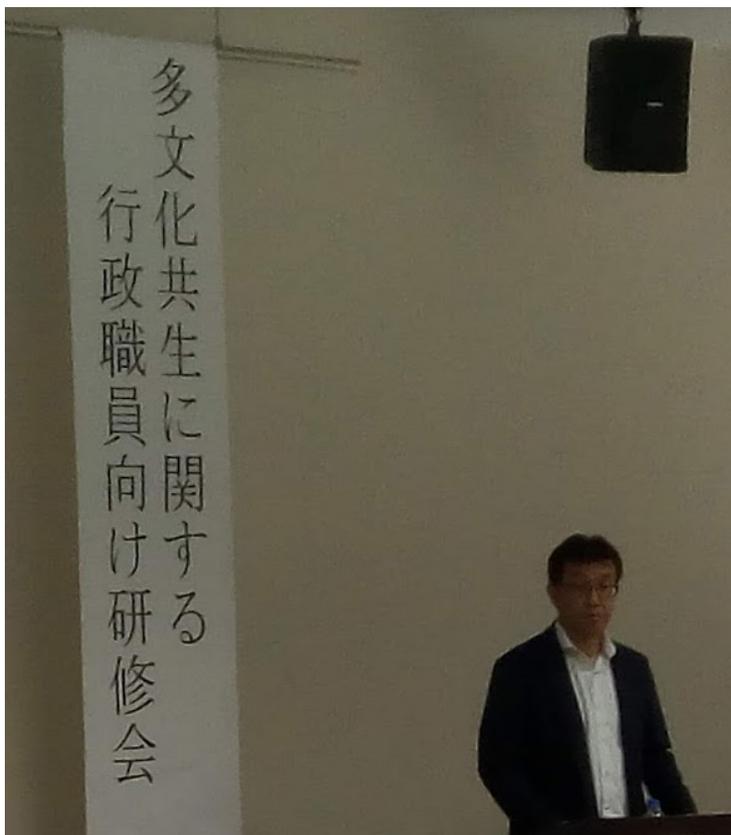
※佐賀から矢富が参加

災害時多言語支援センター立ち上げ訓練 (2019年3月)



- 初の訓練実施（コーディネーター研修の内容・資料を活用）
- マニュアル策定に向け検討作業中

多文化共生に関する行政職員向け研修会 (2019年4月)



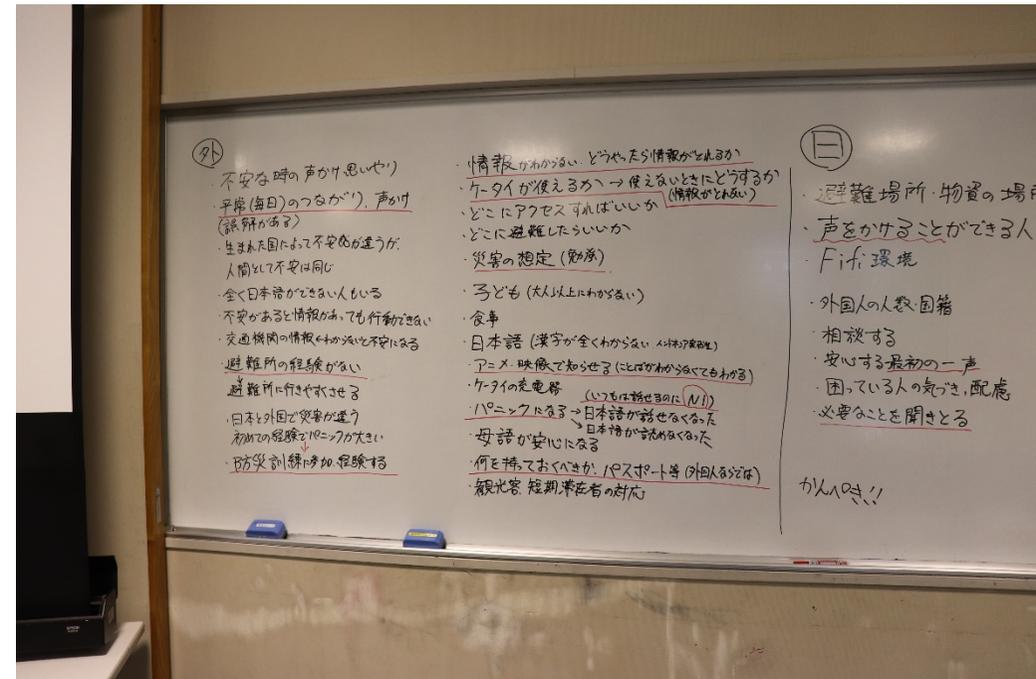
- 県内全市町から担当者が受講
- 市町担当者との関係構築、行政区別外国人住民データ依頼

武雄市役所職員研修 テーマ「多文化共生」 (2019年6月)



- 武雄市全職員を対象に実施(全4回 計321名)
- 終了後に防災担当者から市総合防災訓練についての相談

外国人とともに取り組む！災害対応ガイドブック 作成事業①※クリア助成事業（2019年7月）



- 外国人住民と日本人住民が一緒にワークショップを実施
- 災害に対する意識啓発と同時に顔の見える関係づくり

武雄市総合防災訓練 訓練内容について協議 (2019年8月)

令和元年度武雄市総合防災訓練実施計画（案）

1. 目的

地震災害に備え、地域住民の参加による訓練を実施し、市民の防災意識の高揚及び地域防災力の強化等を図るとともに、市災害対策本部・各対策部の活動及び各防災関係機関との連携により各種応急対策の実践を通じて、防災対策の習熟を図るとともに、これから先の多文化共生の取り組みの中での、災害時での外国人の対応を検証する。

2. 訓練日時

令和元年9月1日（日） 午前6時30分から午前11時30分まで

3. 訓練対象地域

避難訓練対象地区：武雄町全域400名程度（消防団員除く）

避難場所：武雄市役所、武雄小学校、御船が丘小学校

○武雄市初の外国人対応訓練を予定!!

○訓練内容について防災担当者との協議を重ねる

佐賀県災害時多言語支援センター

- 設置基準 佐賀県災害対策本部開設時
- 設置・運営 佐賀県及び国際交流協会の協働
- 設置場所 佐賀県国際交流プラザ
- 今回の従事者
 - 佐賀県国際課（多文化共生係＋国際交流員）
 - 佐賀県国際交流協会
 - 外部協力者（ランゲージワン、外国人ボランティア）

多言語支援センター活動状況

- センター開設まで(1日目)
- 開設から情報発信(1~2日目)
- 発信情報及び体制の変化(3日目~)
- 被害状況の確認(3日目)
- センター閉鎖(~8日目)

センター開設まで（1日目）

- 特別警報発令、浸水被害発生
- 佐賀県災害対策本部が設置される見通しとなり
国際交流プラザへ職員3名が参集
- 災害対策本部設置に伴い多言語支援センター開設
- 職員2名追加参集（計5名の対応）

開設から情報発信（1～2日目）

- 災害対策本部から発信される気象情報、交通情報を多言語発信
（在住外国人の多い順から8言語を決定）
- 通訳サービス無償提供についてクリアから情報提供
- 発信内容が気象、交通から断水、ゴミ集積所などの生活情報へ変化
- 翻訳作業は出勤できない在宅の職員も従事

佐賀災害支援プラットフォーム (SPF) 情報共有会議

- ・豪雨災害発生後、翌日から情報共有会議を開催
- ・県内外の支援団体、行政、社協等が参加
- ・多言語支援センターの活動状況を報告



発信情報及び体制の変化（3日目～）

- ごみ集積所などの情報は、翻訳作業中に状況が変化。（場所の変更、新規追加等）
- 翻訳作業の迅速化のため、外部の翻訳会社から外国人協力者へ直接依頼
- 発信内容が家の片付けやボランティア活動などの情報へ

被害状況の確認（3日目）

- 外国人の被災状況把握のため、武雄市、大町町の避難所を訪問
- 行政区別の外国人数とハザードマップから訪問先の優先順位を決定
- 訪問した避難所では、外国人避難者の聞き取りに加え多言語支援センターの発信情報を提供

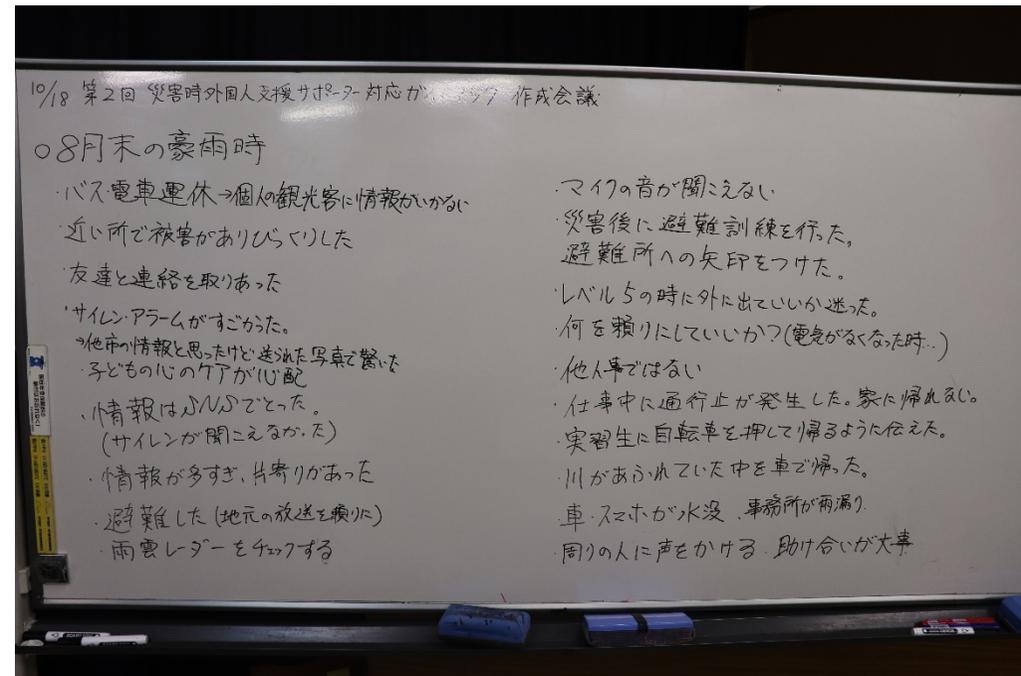
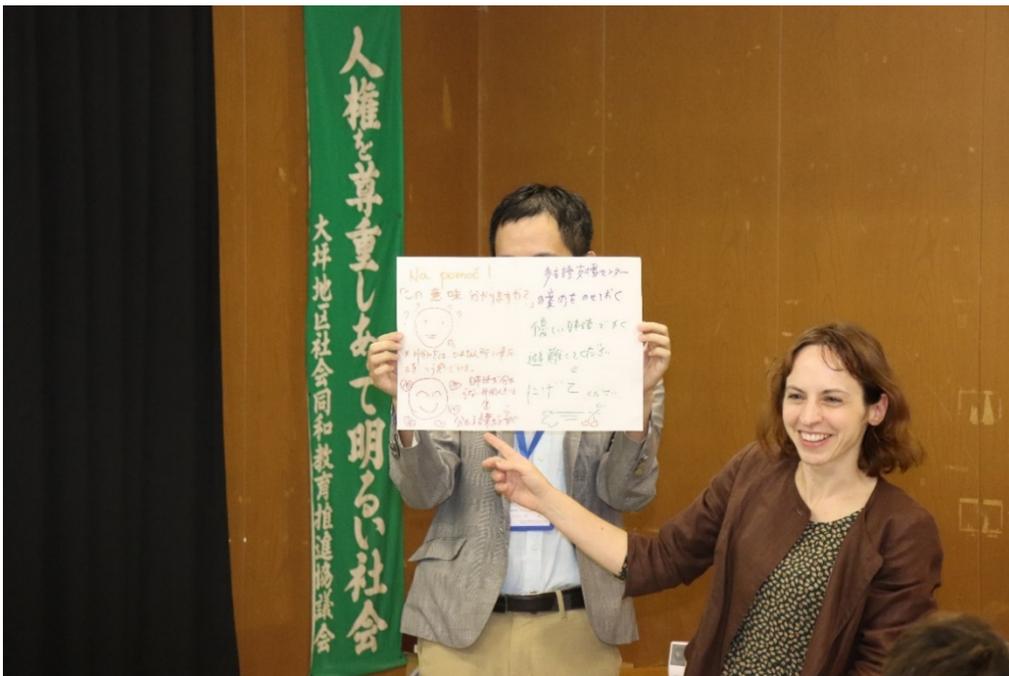
センター閉鎖（～8日目）

- 外国人に関する情報（問い合わせ・相談等）が少ない
- 開設していた避難所と武雄市、大町町を訪問し状況調査
- 多言語支援センターの業務を、佐賀県国際交流協会の相談業務（対応）への移行決定

多言語支援センター発信情報

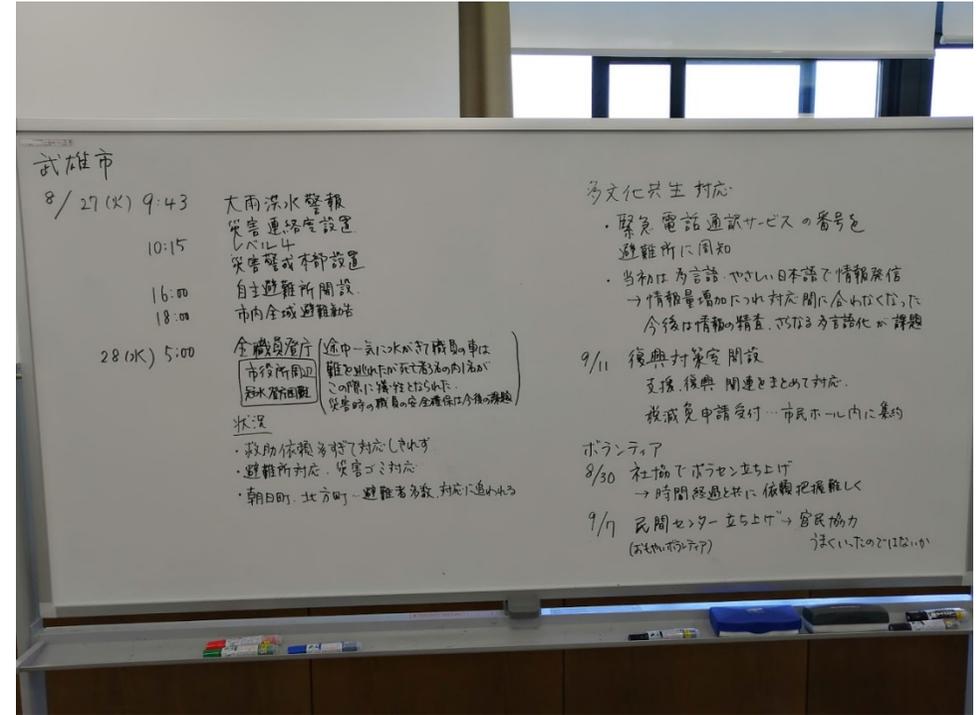
- 気象情報（警報等）
- 交通情報
- 断水・給水情報
- り災証明書について
- 感染症の注意喚起
- 災害ゴミの収集について
- 家屋を片付ける場合の注意事項
- 食中毒の注意喚起
- 冠水した車の対処について
- ボランティア活動に関する注意

外国人とともに取り組む! 災害対応ガイドブック 作成事業② ※クリア助成事業 (2019年10月)



- 当初の予定が豪雨災害で延期に
- 豪雨時の経験を参加者で共有

多文化共生に関する行政職員向け研修会② (2019年10月)



- 防災をテーマに実施
- 豪雨災害時の対応を、被災自治体から報告
- 災害時多言語支援センターの活動内容報告
- 県内自治体の多文化防災事業について報告

小城市役所職員研修 テーマ「多文化共生」 (2019年10月)



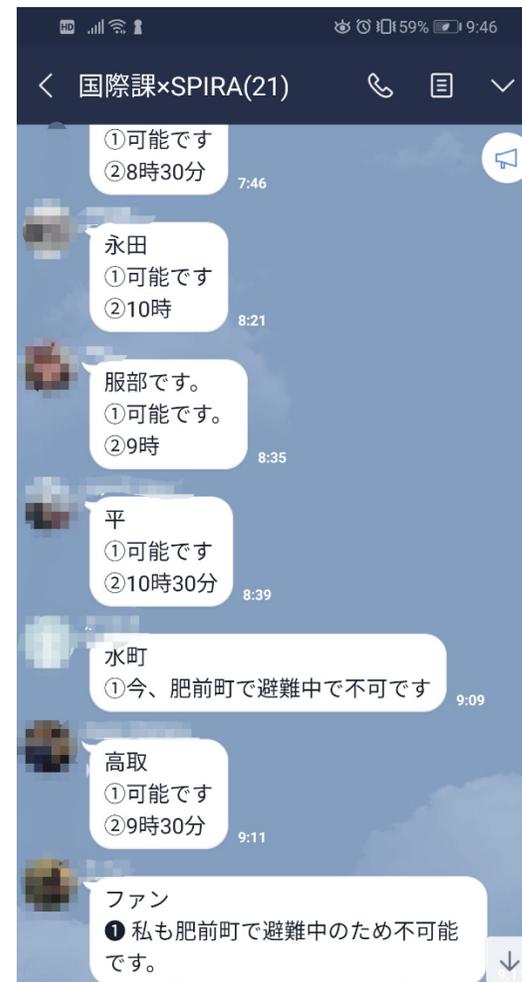
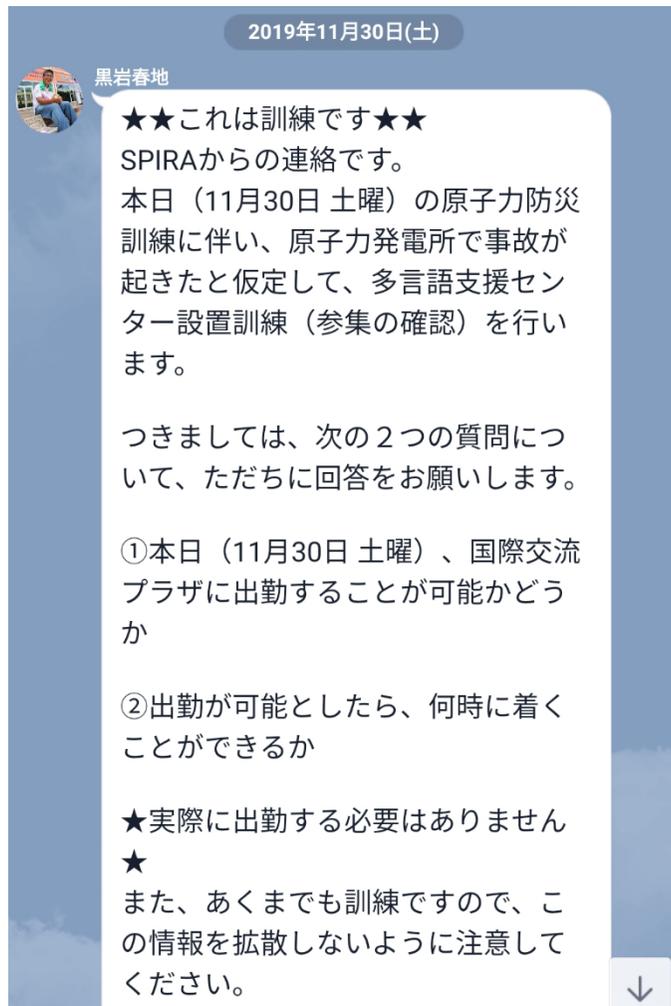
- 対象：小城市職員（全2回 計62名）
- 後日、担当者より外国人対象の防災事業について相談あり
→3/8 外国人向け防災セミナー実施予定（小城市初!）

外国人とともに取り組む！災害対応ガイドブック 作成事業③④（2019年11、12月）



- ガイドブック記載の項目を参加者と検討
- 被災自治体の職員も会議に参加

佐賀県原子力防災訓練（2019年11月）



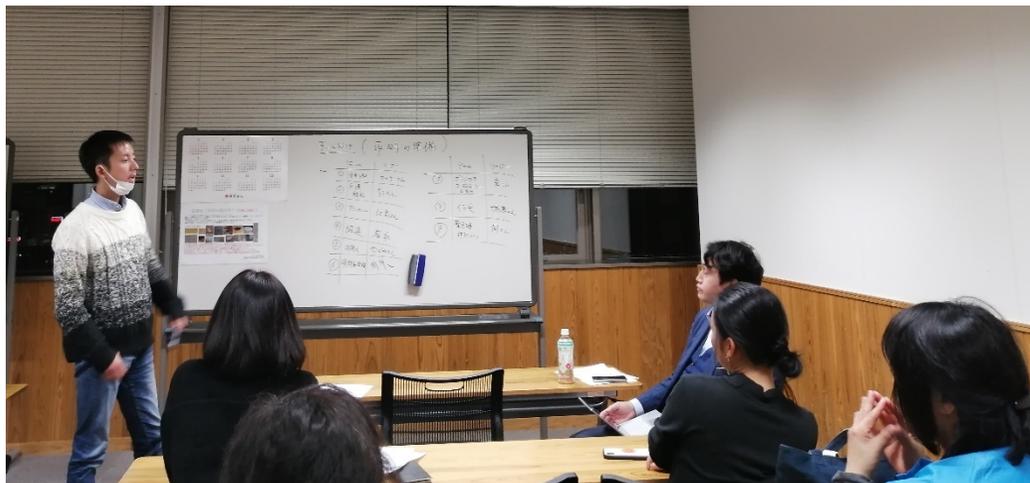
- 外国人住民へ緊急避難メールのプッシュ通知
- 災害時多言語支援センターの緊急参集訓練

災害時多言語支援センター設置・運営訓練 (2019年12月)



- 豪雨災害時の被災データを利用（再現）
- 災害対応時の課題改善

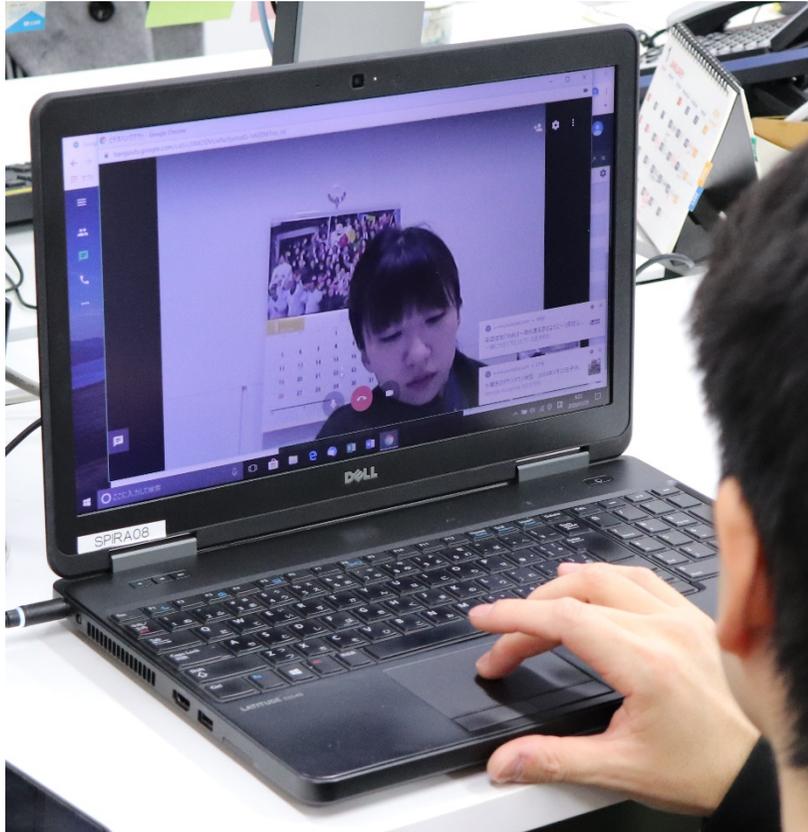
佐賀災害支援プラットフォーム (SPF) 定例会 (2019年12月)



- ・8月豪雨災害での活動の振り返り
- ・今後の防災活動について

	7-4	4-3-1
7-4	① 資金調達	ヤマケミさん
	② 巨源 福祉	
	③ テクニカル	江島さん
	④ 市田協定	岩永
	⑤ 外国人	セトミさん
	⑥ 専門家登録	705さん

災害時多言語支援センター設置・運営訓練 (2020年1月)



- 自宅待機(役)のスタッフと遠隔連携の検証
- 避難所巡回を実施(ほとんどの職員が初めての経験)



Orié Kitamikadoさんは山路 健造さん、他56人と一緒にいます。

8月28日 · 🌐



佐賀県

Saga prefecture. 2019.8.28 5:50am



気象特別警報が発表されています。警戒レベル5相当情報です。どこで災害発生危険度が高まっているかを、気象庁ホームページの「警報の危険度分布（土砂災害、浸水害、洪水害）」で確認。

https://www.jma.go.jp/jp/highresorad/m_index.html

An emergency weather warning is in effect.Alert Level 5. An emergency weather warning is in effect. Check for increasing risk of disaster conditions with reference to the Real-time Disaster Risk Map (Landslides, Inundation, Flooding) on the JMA website.

https://www.jma.go.jp/en/highresorad/m_index.html

警戒等級5相当信

已发布气象特别警报。

根据灾害高危险群以及发生几率查询从气象厅官方网站的「风险度分布（土石流、水灾、洪水）」做以确认。

https://www.jma.go.jp/en/highresorad/cn/m_index.html

警戒等級5相當資訊。已發佈氣象特別警報。根據災害高危險群，氣象廳主頁的「風險度分佈（土石流、水災、洪水）」做以確認。

https://www.jma.go.jp/en/highresorad/tw/m_index.html

경계 레벨 5 해당 정보. 기상특별경보가 발표되어 있습니다. 어디에서 재해 발생의 위험도가 높아지고 있는지 기상청 홈페이지 「경보의 위험도 분포(토사, 침수 해 홍수 피해)」에서 확인.

https://www.jma.go.jp/en/highresorad/kr/m_index.html

Informação equivalente ao nível de alerta 5.Foi anunciado um alerta meteorológico especial. Confirme locais onde o risco de desastres está aumentando, consultando o Mapa de Risco de Desastres em Tempo Real (Desmoronamento, Alagamento, Inundação) no site da JMA.

まとめ（被災して学んだこと）

- 県と協会が一緒にやること!
- スタッフ全員の一体感が重要!
- 被災する前に何ができるか、やれるだけやる!
 - ・ネットワークづくり（住民、団体）
 - ・自治体とのつながり
 - ・スタッフのレベルアップ（個々の判断力も）
 - ・未然に防ぐ努力

使命感!!